

山と電気の風景論 ①9

新潟、福島、山形の飯豊&朝日大連峰<各座1泊2日>

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

東北の奥深い雄峰に挑戦!! 夏場、熱中症も注意

東北三県にまたがる巨大な山塊が飯豊連峰と朝日連峰である。入山した第一印象は、両座とも「奥深く難儀な登山になりそうだが、日本の未開拓の原風景を味わえそうだ」。

両峰の頂上に到達するルートは各県から多くあるが、一般ルート以外は特に険しく時間もかかる。知人の登山家で今年、飯豊連峰を専門家ルートで縦走したが、飯豊山小屋まで12時間の歩行と暑さで熱中症のためダウンした。

今年には好天気よりも若干曇っていたほうが身体にはいいくらいだった。炎天下で眩しい陽射しのなかを歩くよりも展望はイマイチでも小雨のなかをゆっくり登るほうが歓迎なくらいだ。はたして両座への登攀は晴れ曇りや小雨がちであった。絶景は展望できなかつたが、熱中症は避けられたから良しとした。

再生可能エネルギーリソースの宝庫

この巨大連峰を自然生態系からの電源リソース面でみると、いわゆる独立峰と異なり、植生が三県までつながった原生林、ピオトープが何千年もの間に涵養し、果てしなく広大で深い。また日本海岸の豪雪地帯であり夏場も雪渓からの水量が豊富で東北電力や国の水力発電、治水を支えている。コシヒカリなどの米どころも酒蔵(米沢、越後、会津)も極めて多い。また森林には木質燃料が無尽蔵でバイオマス発電の稼働を下支えしている。もちろん太陽光発電も使われ、まさに両連峰は水力・バイオマスなど再生可能エネルギーの宝庫と言える。

とくに筆者が興味を引いたのは木質燃料などを使うバイオマス発電であり、いま山岳地帯の木材を燃料にして電力会社が広がっている。2020年代前半に現在の1.5倍となり、太陽光中心の再生可能エネルギーが多様化する報告書



バイオマスを支える木材集荷(連峰の山麓)

もある(日経新聞調査では大手電力など45社に調査し310万kW→480万kWへ)。そんな山々の太古から天空に伸びる樹木を見つトレッキングした。

大朝日岳頂上には東北電力の独標

大朝日岳の頂上には避難小屋がある。いざという危機時には雷雨、風雪をしのぐ場所でもある。その避難小屋は東北電力と縁が深く、主人が登山客を守っている。このエリアを東北電力が敷地を国から借り受けている標識の横に小さな神社(祠)もあった。頂上への登山客へのサポートを東北電力がバックアップしていることに感謝しつつ参拝した。



東北電力が国有林野を借受

頂上から、日本海に面する庄内平野が見える。平野を両連峰と蔵王、鳥海、吾妻の山岳が囲む。それが「山形」県の特徴でもある。連峰のなかでピラミッド型の大朝日岳が目立つ。深田久弥氏は、朝日岳は「ハケ岳における赤岳のような存在」と記した。氏は、50年前は朝日鉱泉から沢道を重いテントをかついで道を開拓したが、今は地元山岳会や東北電力をはじめ東北振興に力点を置く企業のサポートがあり、道も整備され頂上にも山小屋ができた。

冷氣、靈氣、冷水が溢れた飯豊山

一方の飯豊山は三県の盆地・平野から遠景できる高峰である。山岳信仰の対象になり、登山道には、ワラジを脱いだ草履塚、神の域に登る岩場の険しい御秘所、神社・頂上の前の御前坂がある。非常に奥深く山々のアップダウンを繰り返して進む修験道といえる。山塊がでかいためつかみどころがない山であるが、登山道はバリエーションに富んでいる。細い岩根根、花崗岩の切り立った尾根歩きを経て、御前坂付近に来ると高山植物のお花畑に疲れも癒される。磐梯朝日国立公園に指定され、道路が整備され温泉宿ができてから急速に開けたという。

筆者が、登りたどり着き一呼吸を置いた山小屋で主人が、「ブロッケン現象が見えるぞ」と叫んだ。冷氣の



ブロッケン現象。写真の左側に人影と左上に光輪

ある外に出ると、太陽の光を背に登行者を通り越した所にある雲や霧に散乱され、見る人の影の周りに虹色の光輪が現われた。一瞬、この世の物と思えない荘厳な冷氣を感じた。

また、山頂付近で雪渓歩きもしつつ、清流歩きと水場での命の水を飲んだ。山奥にあって、天然の冷水が一番うまい。この雪渓からの一滴が、平野に大河となって下り、五穀豊穡と水力エネルギーの源になっていることを実感した。

飯豊連峰への登頂記録 平成29年8月11日(山の日)~12日

飯豊山2015m、往復距離25.4km、登山口~頂上約13時間歩行。標高差1638m。一般的な川入野営場コースを、山小屋泊でピストン。

天気は初日は曇り晴れ、翌日の登頂日は小雨、曇り。展望こそ、よく利かなかったが、涼しさで体力消耗せず快適な登山だった。両日とも熱中症とは無縁であった。御前坂付近には飯豊リンドウ、タカネマツムシソウなどお花畑がすごいことと、コースのアップダウンとスリルな岩登り、雪渓歩き、天空ウォーク、ハイマツ小路、ブナ林、杉林参道など変化に富んだルートだった。スリルは三ヶ所。横峯、剣ヶ峰、秘所。三国峠前後と切合小屋の前後の痩せ尾根と岩場ガケには特に注意して歩いた。

【行程】

- ・8月11日(金)
 - 12:26川入野営場~12:31ゲート~13:20中十五里~13:45上十五里~14:16笹平~15:34水場~16:30三国小屋 16:45~17:52切合小屋泊。
- ・8月12日(土)
 - 深夜、山小屋に豪雨が叩きつける。朝方、小雨になって、4:10起床、4:45朝食。軽ザックに詰め替え、5:35切合小屋発。小雨から曇りに。
 - 6:13 姥権現。
 - 6:20 御秘所。
 - 6:33 御前坂。
 - 7:05 本山小屋。山頂神社参拝。山バッジ買う。

- 7:24~7:30 飯豊山登頂。
- 7:48 本山小屋。神社に安全御礼。霧雨。
- 9:14~9:34 切合小屋トイレ、水補給、ザック整理。
- 10:55~11:10 三国峠小屋。カップヌードル、珈琲で「充電」。
- 12:22~25 水場
- 12:44 笹平。ブナ林の森林浴。
- 13:30 中十五里 滑り易い木の根を踏み締める。並んだ杉の参道をゆっくり進む。
- 14:10 川入野営場着。水流で泥にまみれたシューズ、スパッツ、ズボンを洗う。



飯豊山はガスって神秘的な雰囲気

朝日連峰への登頂記録 平成28年9月9日~10日

大朝日岳1870m、往復距離22.6km、登山口~頂上 約8時間40分、標高差1313m。

朝陽館に泊まり古寺鉱泉コースで登頂した。宿には13人が前泊。山男らとの夕食会も盛り上がる。宿が空いており、ゆったり休めたため、翌日のピストン登山は予想より疲れずにすんだ。頂上はガスって強風のため参拝したあと、避難小屋の主人と山談義。途中の古寺山では晴れ絶景が眺望できた。朝日連峰は相当きついと印象があり、心して登ったものの、他の登山者と同じく「暑くなかったこともあり日帰り長距離歩行も苦痛にならなかった」。

【行程】

- ・9月10日
 - 5:10 古寺鉱泉 朝陽館発。
 - 6:25 一服清水。
 - 7:20 古寺山。小朝日岳をトラバースして
 - 9:10 銀玉水。
 - 9:45~9:50 大朝日小屋(避難小屋)。
 - 9:59~10:05 大朝日岳登頂。
 - 10:15~10:30 大朝日小屋。
 - 10:35 銀玉水。
 - 11:45 古寺山。
 - 13:00 一服清水。
 - 13:50 古寺鉱泉 朝陽館。
- *レンタカーで仙台から古寺鉱泉を往復。